



愛知県稲沢市六角堂
東町一丁目3番地6
社会福祉法人
薫風会



働きたい施設づくりを

目指して

ISO9001 審査登録取得



平成十七年を

迎えるに当たって

「働きたい施設づくりを目指して」



社会福祉法人 薫風会
理事長
佐藤 和夫

新年明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新春をお迎えになられたことと存じます。

今年のモットーは、「働きたい施設」をつくること。「そこで働きたいと感ずる職場」づくりを目指すことを前提条件として種々施策に取り組みたいと考えております。難しいテーマですが乱立する競争市場において成功のカギはここにあると思います。

従来やって来たモデルが悪いとは思いませんが、しつかりした規律や、チームワークを重んずる職場、そして仕事の成果を皆んなで分かち合うという考え方、しかしこれだけでは満足出来

ない一つがあると思います。それは職員個々に似合った教育ではないでしょうか。

昨年度において人事考課制度導入も実施段階に入りましたが、全体が軌道にのったとはいえません。是非とも本年において結果を出すことであります。また継続事業として、二十一世紀委員会は中長期の経営指標と新賃金制度を作成したいと考えております。

また、ISO19001の更新審査につきましては無事終了し大変お疲れさまでした。

次に本年度新規予定事業を記します。一、プライバシーマークJIS1Q1

一五〇〇一の取得について
本年四月より施行の個人情報保護法をふまえ保護措置を講ずる体制を整備している民間事業者にたいし、それを標識するマークとしてプライバシーマークの認証をとる制度です。

吉峰推進室長のもと推進委員及び職員全員が知識をもって十月目標に取得したいと考えています。ISOと同様マニユアル作成が基本になりますので呉々もご盡力をお願いします。(財)日本情報処理協会と契約し有効期間二ヶ年。二

年ごとに更新審査をうけることになり

ます。

一、地域密着型サービスの核として
地域における総合的なマネジメントを担う中核機関として、当法人が中核的相談窓口機能を受持つことにより「痴呆ケア」や「地域ケア」を推進する役割を果たすサービスの提供を推進するよう努めなければなりません。

介護保険制度、社会福祉基礎構造改革により今問題となっており「社会福祉法人制度の見直し」論について少し触れますと

社会福祉事業の主たる担い手である社会福祉法人についても、改めてその在り方が問われ、低所得者への配慮等の公益取組の強化、経営管理体制の強化、規制緩和、介護分野におけるイコイルフツテングの観点からの見直しなどの指摘がなされております。

特に公益的取組の推進としては地域福祉の推進と積極的な公益的取組の推進が求められおり、社会福祉施設等の持つ機能の地域への開放、災害時の支援、地域での支援ネットワークの構築、福祉に携わる人材の育成などが求められております。

ユニットケア棟竣工

事務長 丹下 司 朗

平成十五年十月に着工したユニットケア棟三十床とケアハウス八室が平成十六年三月三十日に竣工いたしました。

○介護保険制度は、個人の自立した日常生活を支援するため、質の高いサービスを提供するものであり、「生活の場」である特別養護老人ホームにおいては、これまでの集団処遇型のケアから個人の自立を尊重したケアへの転換がとめられている。このため、今後整備する特別養護老人ホームについては、全室個室・ユニットケアを原則としていくこととする、と定められている。

※ユニットケアとは施設の居室をいくつかのグループに分けて、それぞれをひとつの生活単位とし、少人数の家庭的な雰囲気の中でケアを行うものです。へ「個室・ユニットケア」の意義

①入居者は個性とプライバシーが確保された生活空間を持つことができる。

②個室のちかくに交流できる空間を設けることにより、他の入居者と良好な人間関係が築け、相互の交流が進む。

③自分の生活空間ができ、少人数の入居者が交流できる空間もあることで入居者のストレスが減る。

④家族が周囲に気兼ねなく入居者を訪問できるようになり、家族関係が深まることにもつながる。等が上げられる。

植木苗木の畑に囲まれた本施設は、一階から三階まで日当たりのよい南向きで居間兼食堂から続くウッドデッキは車椅子でそのまま出ることができ、年中四季折々周りの景色を眺めながら日光浴ができます。建物の内部に入ると、お年寄りがのんびりと居間でくつろぎながら新聞を読んだり、テレビを見たりしています。そばに寄り添うスタッフは、利用者の娘さん、お孫さんといった雰囲気です。

薫風という名称が、このホームに息づいていて、施設の周りの環境とマッチしてすばらしい雰囲気を漂わせています。

また理事長さんのモットーであるS・H・A(スマイル「笑顔」ハート「思いやりの心」)「献身的な活動」に心掛け穏やかな暮らしとゆつたりとした、かかわりを作っていきます。3つのフロアはそれぞれ「さくら」「かえで」「つじ」と親しみのある名にしました。

利用者の方々に心安らかな老後の生活を送っていただくように、一生懸命努力いたしています。

第二大和の里はユニットケアと同時に「地域交流センター」とケアハウス八室も増設し、特養百床(内ユニット三十床)、ショートステイ三十床、ケアハウス二十八室、グループホーム八室、デイサービス五十人定員からなる、西尾張地方の老人福祉の核となるべく飛躍に努めています。



運 動 会

去る十月十四日、第二大和の里では秋の大運動会が開かれました。天気は快晴。少し動くと汗ばむ程の陽気です。

毎年恒例、千代田保育園の園児を招いての運動会。皆さん、とても楽しみにされていました。

まずはファミリィ代表による選手宣誓が行われ続いて準備運動です。

毎日しているラジオ体操も、こうして皆で集まると、自然と笑顔になるようです。



体操で体をほぐした後は、最初の競技、菓子食い競争の始まりです。車イスの方も職員と力を合わせてロープに吊されたお菓子を取ろうと一生懸命です。やっと手にし

た時には、大きな笑みがこぼれていました。続いて競技は借り物競争です。

「学生服」を引いた方は少し照れながらも、懐かしのセーラー服に着替えられゴール目指して走られました。

競技は一休みし次は園児達による出し物です。

組立体操や、旗を使った体操は毎日の練習の成果が十分に出ていました。息の合った演技に、ファミリィの皆さんは「上手だね。」「かわいいね。」と微笑んでおられました。

続いてフォークダンスが行われ、園児らのリードに合わせて、皆さんリズムカルに踊られていました。

すっかり園児らと仲良くなったところで、次は玉入れです。

職員が背負ったカゴ目掛けて、一生懸命、玉を投げます。



玉が職員に当たると皆さん「痛そうだねえ。」と言いながらも、どこか嬉しそう?!です。

大変、盛り上がったところで、次は職員による大縄とびです。

飛んだ回数が得点になるので、ファミリィも職員も真剣です。

なかなか上手く飛べない姿を見て、皆さん「がんばれ!!」と声を掛けて下さいました。

さあ、いよいよ得点発表です。

結果は白組の勝利! でも紅組の皆さんも心から楽しまれた、そんな表情でした。たくさん動いた後は待ちに待った、お弁当です。



お日様の下で

皆と食べる弁当は本当に美味しかったです。

食欲も普段の倍はあったかな?

皆さんの笑顔も倍に見られた、そんな楽しい楽しい運動会でした。

グループホーム家族会

菊花展開催の名古屋城遠足

十月二十四日(日)に家族会の一行事として名古屋城へ行って来ました。

当日は穏やかな曇り空で帽子要らず、もってこいの外出日和で良いスタートとなりました。御家族様四名の参加をいただき、職員とで総勢十五名の一行は車中の人となりウキウキ。昼食会場でのまとまった席確保の為、早目の出発をして開店を待って一番乗り。豊の苦手なファミリィには低目の椅子が用意され、店側の配慮が感じられました。美しく盛り付けられたお料理に感嘆の声が上がります。食が進みます。御飯は、きのこの炊き込みと白の二種類が用意され、各自好みの方を食べる事ができました。お



店の広いガラス窓は見晴らしが良く、田んぼにはコンバイン。稲刈りシーズン真盛りでした。昼食を終え三十分で名古屋城着。菊人形展は終了展示は菊花展へと代わっており、境目であった為か人も少なく、



混雑なしに花を楽しむ事が出来ました。鉢植えの大輪物や一本の茎から出た多数の枝を美しく円形に仕立てた作品、溜息の出る程繊細な糸菊の大鉢の数々そして丹精の込められた盆栽も数多く陳列され、小さく育てられていて大木の風情に一同「よくこんなに作られたものだねえ」と賞賛の声が聞かれました。御家族からも「こんなに近い所に名古屋城があってももうずっと来た事がなかった。今日はいい物を見る事ができて本当に良かった。」の声があり、笑顔で歩くうち、菊の花壇と天守閣がちょうどうまく収まるポイントを発見!

みんな集まって「ハイ！ポーズ」たいへん良く撮れました。芝生の広場を通って行くといよいよっぱなお城入り口へ……石垣を見上げて「昔の人は機械もないのにどうやって石を運び出したり、切ったり、積み上げたりしたんだらうねえ」と口々に素直な疑問が出ます。天守閣は車椅子も利用できるようにエレベーターが設置されており、あなたも素晴らしい眺めを堪能する事ができ、嬉しい事でした。一番年長のファミリィが最上階への階段を自力で四十段登り下りされる場面が見られ明治生まれの方の気骨が感じられました。



見学の後はお休み処で一服。みみらし団子等に舌つづみ。

元気に帰設しました。次の家族会は年忘れ鍋パーティをと計画しております。より一層、多数の御家族の参加をお待ちしております。

第二大和の里支援センター通信

— 痴呆啓発事業に参加して —
 第二大和の里支援センターは、ケアマネージャー五名（居宅介護支援事業所）社会福祉士・看護師の各1名（在宅介護支援センター）で活動しています。

平生は、それぞれ業務を遂行していますが、一人暮らしの高齢者等の場合は、居宅と在介とが連携しながら支援しています。

今回、私達は全国在宅介護支援センター協議会が募集した「痴呆に関する正しい知識と理解の啓発事業」に応募し、幸運にも、適切な事業成果が得られる対象として選ばれました。



支援センター室の風景



私達にとって、初めての大きな取り組みだっただけに、予想以上に準備時間が掛かり、大変苦労しました。しかし、それが終了した時には、心地好い達成感が溢れ、充実した時間を持つ事が出来ました。

この事業は、平成十六年七月から九月の三ヶ月で実施しました。当施設周辺である、稲沢市の明治・千代田地区の四ヶ所の公民館（天池・国分寺・田代・附牛）で開催しました。各会場、三回構成で、計十二回の勉強会を行いました。担当地区の民生委員さん、区長さんの御協力を得、総出席者数二四七名と、多数の地域住民の方々に参加していただきました。

一回目は、痴呆症についてのリーフレットを使いながら、①痴呆症の症状についての理解を深めました。

二回目は、①専門医の受診、②介護保険・福祉サービスを利用して、地域で生活されている事例を紹介しました。

三回目は、ロールプレイで、きつい言葉を浴びせられる人の体験をしたり、寸劇を通して、痴呆症の人の対応方法を振り返り、もう一度考えていただく機会となりました。

毎回、参加者が語って下さる体験談や御意見は、大変参考になりました。「痴呆を身近な問題としてとらえる事が出来た」、「少しでも地域で協力し、





劇 風 景

助け合って生活していきたい」や「自分の杖としてこれからも勉強を重ねていきたい」等の感想が聞かれ、また情報交換の場にもなりました。

痴呆性高齢者と接する事は、容易な事ではなく、どのように対応すれば良いのか、一〇〇%の完全な答えはありません。この難しい問題に対して、私達のこの勉強会が、少しでも、その解決のヒントになれば幸いです。

人間は、痴呆という障害を抱えながらも、幸福に生きられますし、又、幸福に生きる権利があります。それを当然の前提とし、「その人らしい生活がおくれるよう」、私達、一人一人が試

行錯誤の中、一步でも二歩でも、住みやすい、私達の街づくりに貢献出来ればと思っています。

私達は、今回の啓発事業を通して、日常業務では、なかなか得られにくい地域社会との接点が出来、大きな収穫でした。多くの参加者の方々からは、今後も、勉強会や介護教室等を開催してほしいとの要望が聞かれました。

「地域の核となる」施設方針や私達の「住みやすい街づくり」への貢献をしていきたい気持ちをどのように表現していくか、現在、いろいろと検討しています。



グループ活動風景



支援センターメンバー

稲沢市主催の勉強会や介護教室はありますが、回数・定員に制限があり、希望者は多くても、なかなか参加出来ないのが現状です。今回の勉強会でも予想以上の参加者数が、その事実を証明しています。

私達が出来た事、その使命は、地域の社会福祉の一員として、介護の分野で、今以上にリーダーシップをとっていかなければならないと思います。

今後の目標としては、「家庭介護教室」を開催し、地域に発信していきたいと思っています。

ボランティア感謝祭

十一月二十三日に大和の里でボランティア感謝祭を開催しました。

当日は晴天に恵まれ、午後より食堂でファミリーの器楽演奏・カラオケを披露しました。公私ともにご多忙の中、書道・絵画・工芸等の作品造り、又シーツ交換、環境整備等、本来私達の仕事をお手伝いしていただき本当に感謝しております。

この日を迎えるにあたって、ファミリー・職員が心をこめて、毎日コツコツと作品（箸おき）を製作しボランティアの皆様にはプレゼントしました。

その後、装い新たになった機能回復訓練室で、厨房職員が感謝の意を込めて中華料理のおもてなしをしました。

準備もわずか数日間でしたが、ファミリー・職員ができること全てをボラ



ンティアの皆様喜んで頂けるよう努力したつもりです。お帰りの際、楽しい一日を過ごして頂いた表情が伺えたのは私たちだけでしょいか？

今回もまた盛大の内に感謝祭を終えることができたのは、ナニヨリ…。

小・中学生のボランティア

16年度より小・中学校で校外学習の一貫として、夏休み後の毎週火曜日に、午前中に小学生、午後より中学生が、本施設を訪れ、施設内を見てファミリーとコミュニケーションをとってもらいました。

最初の頃小学生ボランティアは、ファミリーとのコミュニケーションも何かぎこちないしくさが目立ちましたが、回を重ねるにつれ打ち解けて、自信をもって接してくれるようになり、ファミリーも喜んでくれていたのではないかと思います。遊び心の中で、ファミリーは日頃どのような生活をしているのか、職員はどのような仕事を1日を通して行っているかを学んでくれたのではないかと思っています。

中学生ボランティアは、取り組み方も真剣味がひしひしと感ぜられました。聞くところによると、中学3年生ということで、この時期、高等学校進学を

希望する生徒さんにボランティア体験を通じ貴重な時間をファミリーと共有して頂き本当に感謝しております。中学生の方々にとっては、これから進路



を決めるに当り、悔いの残らないようにしてほしいと思います。

最後に、小学生の皆様方からも中学生の皆様方からも日頃練習を重ねてこられました歌、手品、楽器といろいろ披露して頂きまして誠にありがとうございます。

失礼とは思いますが、誌面をかりまして御礼申し上げます。

大和の里改修工事

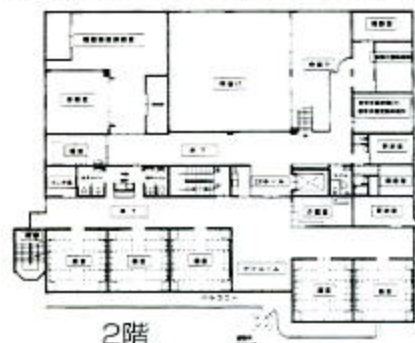
平成十六年四月から始まり、八月末に終了した改修工事についてお知らせします。

改修工事は特養・デイサービス共に機能回復訓練室・会議室・廊下・トイレ・ホール・相談室・玄関ホールを行いました。今回の工



事では、日照・採光・換気等保健衛生・防災等に考慮し、部屋の東側と北側に窓を設け日照・採光を確保し、観葉植物の緑でゆったりとした雰囲気

気を作っています。部屋を出ると広いロビーになっており、食前後に談笑する場となります。出入口の幅を十分に



2階



おりま
す。
職員も
新しく生
まれ変わ
った環境
の中で、
初めに戻
り益々ご



り、手摺の設置、段差の解消等安全に車椅子・ストレッチャの利用ができるよう配慮しています。御利用者様の残存機能の維持向上を目的としたリハビリ機器を用意させて頂いて



デイサービス棟

利用者の自立支援ができるよう努力し、笑い声が絶えない楽しい時間を大切にしたいと思えます。お近くにおこしの際はぜひこちらにお寄りください。

大和の里エンジェルズⅡ

四位入賞!

愛知民老協主催の第6回ボウリング大会が、去る平成十六年十一月二十七日(土)額田郡幸田セントラルボウルで開催されました。

ゲームは、3名1チームで1名が2ゲームを投げ、チーム3名の計6ゲームのトータルピンで競う団体戦で行われるものです。大和の里からは2チーム(竹中・佐々木・今井)(小島・東畑・西川)が参加し、日頃の練習の成果を出し合いました。結果、エンジェルズⅡが堂々の4位入賞を果たしたのですが、メンバー全員が納得いかず、来年こそは「優勝」をと既に第7回に向けて新たに練習を始めています。

職員の皆様!一緒にいい汗を流しませんか? エンジェルズ入団希望者は、リーダー竹中事務長まで。(随時申込受付中)

(今井)



正月あれこれ



あけましておめでとございます。さて昔ながらの正月とは、初詣、風あげ、年賀状などたくさんのものでありますが、食でいう正月とはやはりおせち料理、お屠蘇が真つ先が上がってくると思います。おせち、お屠蘇など、お正月のしきたりには健康や豊穣など人々のさまざまな願いが込められておりここでその一部を紹介したいと思います。

おせちは一年に五回ある節句の供え物の作った煮しめが、正月に限られるようになり、現在のような形に発展しました。外が黒塗り、内が朱塗りの四段重が正式で、一の重は口取り、二の重は焼き物、三の重は煮物、四の重は酢の物を入れるとされています。かつては、日ごろ台所で立ち働く女性を正月くらいは休ませようという配慮から、作りおきのきく料理が中心でした。

お屠蘇は新年を祝うもので、肉桂、山椒、桔梗、防風など七種類の生薬を配合した屠蘇散を酒・みりんに浸して作ります。中国、唐の時代にはじまっ

た習俗で、日本には平安前期に伝わりました。

祝い箸はお正月など、ハレの日には両端が細くなっている白木の箸を使います。これには一方を自分が使い、もう一方に神様が宿るという意味が込められています。箸袋に名前を書くのは神様に守っていただけよう願いをこめたものです。

祝い肴三種はおせちを代表する縁起もので、子孫の繁栄、健康、豊作を願ったものです。祝い肴三種があれば、おせちの形が整うといわれます。中でも田作りは豊作を祈る縁起もので、田畑の土作りにいわしをいれたこと由来します。小さくともお頭つきです。黒豆は日に焼けて真つ黒になるまでまめ(勤勉)に、しわがよるまで息災にすこせませうよという願いを込めたものです。数の子は子孫の繁栄を願うものです。

七草粥の豆知識

七草は日本のハーブと言われるいます。ここでは、疲れ気味の胃を落ち着させる七草粥にまつわるエピソードをご紹介します。

ところで、なぜ七草粥なのでしょうか。

七草は、早春にいち早く芽吹くことから邪気を払うといわれました。そこで、無病息災を祈って七草粥を食べたのです。古くはまな板の上で、草をトントン叩いて刻むその回数も決められていたとか。こんな、おまじないのような食べ方も素敵ですが、実はこの七草粥はとても理に適った習慣です。

七草はいわば日本のハーブ、胃腸に負担がかからないお粥で食べようというのですから、正月疲れが出はじめた胃腸の回復にはちょうどよい食べものです。また、あっさり仕上げたお粥は少し濃い味のおせち料理がつづいたあとで、とても新鮮な味わいです。



七草粥の材料表		七草粥の作り方	
七草	100g	1. 七草を洗い、水気を拭く。	1. 鍋に水を入れ、七草を入れて煮る。
米	100g	2. 米を洗い、水気を拭く。	2. 米を加えて煮る。
水	1.5L	3. 塩を加えて煮る。	3. 塩を加えて煮る。
油	少々	4. 煮終わったら、油を加える。	4. 煮終わったら、油を加える。
塩	少々	5. 煮終わったら、塩を加える。	5. 煮終わったら、塩を加える。
油	少々	6. 煮終わったら、油を加える。	6. 煮終わったら、油を加える。
塩	少々	7. 煮終わったら、塩を加える。	7. 煮終わったら、塩を加える。
油	少々	8. 煮終わったら、油を加える。	8. 煮終わったら、油を加える。
塩	少々	9. 煮終わったら、塩を加える。	9. 煮終わったら、塩を加える。
油	少々	10. 煮終わったら、油を加える。	10. 煮終わったら、油を加える。
塩	少々	11. 煮終わったら、塩を加える。	11. 煮終わったら、塩を加える。
油	少々	12. 煮終わったら、油を加える。	12. 煮終わったら、油を加える。
塩	少々	13. 煮終わったら、塩を加える。	13. 煮終わったら、塩を加える。
油	少々	14. 煮終わったら、油を加える。	14. 煮終わったら、油を加える。
塩	少々	15. 煮終わったら、塩を加える。	15. 煮終わったら、塩を加える。
油	少々	16. 煮終わったら、油を加える。	16. 煮終わったら、油を加える。
塩	少々	17. 煮終わったら、塩を加える。	17. 煮終わったら、塩を加える。
油	少々	18. 煮終わったら、油を加える。	18. 煮終わったら、油を加える。
塩	少々	19. 煮終わったら、塩を加える。	19. 煮終わったら、塩を加える。
油	少々	20. 煮終わったら、油を加える。	20. 煮終わったら、油を加える。

ギリシャ・オランダ 老人福祉施設視察

大和の里 事務長 竹中麻香
事務主任 竹中将貴

去る、九月二十三日から三十日まで東海北陸ブロック老協海外研修ツアーにて、ギリシャ・オランダの老人福祉施設を視察して来ました。

二三日の日は朝早く家を出、フランクフルト経由でアテネに朝の八時に着くという二四時間に近い旅路でした。

アテネでは、ギリコミオーアシオンという養護老人ホームへ行きました。

この施設は各財団からの寄附にて建てられ、入所の条件として「自分で自分の事が出来る人。痴呆のある方は受け入れる事が出来ない」という決まりです。国の援助もなく、一八六四年に建てられ最初は経費もなく、大部屋での生活、その後三八五名が二人部屋、個室部屋と生活が変わった。



アテネは貧富の差が激しく貧しい方はホームレスの人々が多半を占めており、一ヶ月二三四ユーロ位支払うとホテル並みの部屋で生活が送れる。

施設内にはコーヒーマシン・ピアニオを弾いたり聞いたり雑談できるようなになっており、趣味を生かせる場所もあり一年に一回バザーを行い収益にしている。食堂は法律上作らなくてはならないがこの施設には食堂はなく毎年罰金を支払っている。棟から棟へは施錠があり、日本ではある意味拘束ではとらえられる。職員は二〇五名、医師・介護士・事務員・水道屋・電期屋等が配置され、一日三回の交替勤務になり三八五名が八棟に分かれ過ごされており、自分の事が出来る人の夜勤者は一、二名、少し援助のいる方の棟は四名の職員が配置され、医師は二四時間体制である。又、毎週水曜日に医師・精神科医・館長・相談役とで入所している方・これから入所される方を決めている。

一方、オランダは町の中に老人ホームが多く訪問した施設は、デ・デーム（デンマーク市内にある）養護老人ホーム。入所八十名その内七七名が一人部屋、三名が夫婦部屋で生活をしている。基本的には自立した人を入所させて、その人の生活スタイルに合わせて介護をしている。又、ケアプランも作成されており、デイサービスも近所の在宅の方が週に何回か通っている。施設内の一階は精神病棟で一日中リビングで過ごす事が多く、全体ではゲーム・体操・遠足という行事もある。レジヤの活動はボランティア五十名が行なっている所に住む方の昼食サービスもボランティアで行なっていて、施設内にはボランティアコーデイネーターも配置されている。二階・三階はユニットケアで自立されてる方が多い。

日本の介護保険制度の変わりにAWBZという四十歳以上を対象とした一般特別医療保険制度があり、一年間の予算は約四億円になる。

今回、アテネとアムステルダムに行きましたが、両施設の違いは多くアテネではまだ「婆母捨山」というイメージが残っているのが現状でした。